

『ZAITEN』葛西名誉会長の実態！シリーズ⑦

不倫相手とされた女性宅の警備費用をJR東海が負担 「代表取締役名誉会長」なる珍妙な肩書き

(JR東海労に)送られてきた(会社の)内部資料には「取扱注意」の判を押したのもあった。中には佐藤委員長と同委員長派の組合役員を解任するための多数派工作の方法・手順、社員や各方面に向けて出す会社のメッセージ内容、マスコミ対策、政財界対策、JR総連攻撃(JR東日本、JR九州、JR四国の労使関係に火をつける)等々の記述がある。「人事担当部長・課長会議」の資料だとするものも含まれていて、「旧D(動労)以外の組合員は東海労組に全て残す」とか、「副社長」をトップに据えた「参謀本部を作る」といったメモが書き込まれていた。

91年9月、“女性スキャンダル”が、写真週刊誌『FOCUS』(9月13日号)にスクープされている。その後も『FRIDAY』(92年6月12日号)が不倫相手とされた女性宅の警備費用をJR東海が負担していると追撃。

「3人組」の中で今なお代表権を持ち続けているのは、葛西ただ一人になった。…(略)…葛西は、社長を95年から04年まで9年努めたあと会長を10年続け、14年からは「代表取締役名誉会長」なる珍妙な肩書きを戴いている。さらに代表権に至っては90年の副社長就任以来、実に27年に及ぶ。

…(略)…(JR東日本の)松田は社長就任直後、若返り人事で話題になった松下電器産業(現パナソニック)の山下俊彦相談役に、あるべき社長在任期間について尋ねたことがあったという。《山下氏は、「五、六年目になると充実し、八年まではやれると思った」と言われた後、「しかし、七年目くらいから取り巻きの増え、自分は公平にしているつもりでも時代感覚からずれ始めていることに気が付いた」。…中略…実際、私が社長から退いたのも七年目を過ぎた時だった》

そんな“元同志”の指摘はどく吹く風、葛西は一旦決めたら我が道を突き進むタイプ。